

第3回臼杵市・津久見市任意合併協議会

(管内視察研修)

無垢島(資料)

保戸島(資料)

保戸島診療所(資料)

津久見港から乗船し、船上より無垢島を視察後、保戸島港に到着。保戸島コミュニティセンター(1F 市役所出張所・デイサービスセンター、2F 地区集会所)で、無垢島地区、保戸島地区、保戸島診療所について、説明を受けました。(内容は資料)

また、保戸島の郷土料理について、保戸島婦人会会長 中川ルリ子さんより、説明を受けました。



無垢島



四浦半島(間元地区)から見た保戸島



保戸島診療所



保戸島コミュニティセンター

1F 市役所出張所・デイサービスセンター
2F 地区集会所

第3回臼杵市・津久見市任意合併協議会 (管内視察研修)



保戸島コミュニティセンターにて



保戸島コミュニティセンターにて



保戸島コミュニティセンターにて
(写真左:保戸島婦人会会長 中川ルリ子さん)



保戸島漁港



保戸島漁港



保戸島を背景に間元地区にて



訪れた人を魅了する 新鮮・感動アイランド

津久見港から約16km沖に浮かぶ島で、周囲3kmの小さな島(地無垢島)。日豊海岸国定公園の美しい自然景観を有し、北側のふもとから山頂にかけて約5,000本の椿が、1月の中旬から見事な花をつけます。この島の一番の魅力は、観光化されていない自然と、文字通り無垢であったかな心の島民です。

指定地域名	豊後諸島	島名	地無垢島	面積	0.29km	
国調人口	H2年	93人	住基人口等 (平成19年3月31日現在)	【航路】 本土 津久見市 客船及び給水船(ニューむくしま) 平日1便 水・日・祝2便 1隻 所要時間 30分(航路距離1.6km)		
	H7年(a)	84人				人口 72人
	H12年(b)	72人				世帯 27世帯
	H17年(c) c/b	70人 97.20%				
概要	(交通施設) 公道がなく集落内を縫うような狭い通路と海岸保全や漁港後背地を利用した護岸敷がある。 (通信施設) 平成15年度に行った地域イントラネット基盤施設整備事業にて18GHz帯無線アクセスシステムを導入、情報通信インフラを整備した。 (産業) ホゴやタチウオの一本釣り及び採貝藻漁業を中心にした沿岸漁業であり、農業は皆無の状態である。また、県内デパートなどに地元特産の「椿油」や「無垢島うに」を出品し好評を得ている。また、「椿の里」づくりに取り組んでおり、純度100%の「椿油」が作られる。 (生活環境) 水道(簡易水道)については、未整備のため、飲料水は本土よりニューむくしまで輸送しているが、生活雑用水については塩水化した井戸水、雨水の利用に頼っている。可燃ゴミについては、小型ゴミ焼却炉が設置され、不燃ゴミ・粗大ゴミ・屎処理については、本土からの収集船により3ヶ月に1度輸送している。 (医療) 無医島であり年1回の健康診断(4月)と毎月1回の巡回診療時に本土の医師が診療する。また、年1回、保健師が保健指導、住民検診を行っている。 (福祉) 保戸島にあるような福祉サービスや施設がなく、今のところ予定もない。 (教育文化) 文教施設については、小学校(1)、中学校(1)が同一校舎内に設置されており、昭和52年度に小中学校校舎の建て替えを行ったが最近では老朽化が著しい。また、保戸島と同様に教職員住宅も老朽化が著しい。生徒数は小学校5名、中学校3名(平成19年4月1日現在)。 (観光) 九州4大学(大分大学、熊本大学、鹿児島大学、福岡教育大学)と合同で無垢島自然体験学習会を行っている。事業内容(平成18年度)・・・参加者111人(1泊2日コース57人・2泊3日54人)磯生物の観察、天体観測、地層観察(化石)、トコロテン作りなどを通して地元、大学との交流を図る。 (国土保全) 住宅背後の急傾斜地対策は完成しているが、海岸保全高潮対策は一部未施行地域があり今後の整備が必要である。					

観光案内



県内はもとより、県外からの釣りファンも多い島。旅客船をチャーターしてのクルージングも可能です。自然豊かな海岸での海水浴やキャンプ、磯遊びも楽しめます。最近では、恐竜が生息していた頃の貴重な化石などが発見され、また、周囲に光源が少ないことから、天体観測も注目を集めています。



特産品

ニイナの天ぷら



クロメ汁、サザエめし、ニイナの天ぷら(写真)、太刀魚のすり身、トコロテンなど、島ならではの郷土料理は多くのファンがいます。

無垢島うに



無垢島椿油



特産品「無垢島うに」は、海で採れたままを瓶詰めした最高の味です。また、無垢島椿から作った椿油(純度100%)も極上品です。島の海女さんが自分たちで作るトコロテン、クロメ、手作りみそは、市販品では真似できない味です。春にはヒジキも旬を迎えます。(季節商品のため、数に限りがあります)



遠洋マグロ漁で築いた海部の民の島

津久見港から約14kmの豊後水道に浮かぶ島で、周囲4km、面積0.86km²。人口1,300人弱の島。明治中頃に始まったマグロ漁業で、現在も一大マグロ船基地として日本各地でマグロを水揚げしています。島は平地が少なく、海岸から山への斜面に3,4階建ての住居が林立しており、外国の漁港を思わせる景観です。

指定地域名	豊後諸島	島名	保戸島	面積	0.86km
国調人口	H2年 2,449人 H7年(a) 1,963人 H12年(b) 1,520人 H17年(c) 1,266人 c/b 83.29%	住基人口等	(平成19年3月31日現在) 人口 1,283人 世帯 550世帯	【航路】 本土 津久見市(航路距離14km) 客船7便/日、船舶数2隻 所要時間 25分	
概要	<p>(交通施設) 住宅が密集しているため、道路の幅員を拡張整備することは不可能な状態にある。</p> <p>(通信施設) 平成15年度に行った地域イントラネット基盤施設整備事業と、ADSLを活用した住民向けインターネット事業で情報通信インフラを整備した。</p> <p>(産業) 全国的にも有数のマグロ漁業として発展してきたが、近年のマグロの漁獲量減少及び後継者不足等により、マグロ漁業を継承しつつ、無垢島と同じように、漁礁設置による漁場管理や種苗放流等の「つくり、育て、管理する漁業」への転換を図っている。</p> <p>(生活環境) 水道(簡易水道)は、四浦半島仁宅ダムからの送水(約8km)により普及率100%である。可燃ゴミ、し尿は週2回、不燃ゴミは年8回本土に輸送している。平成9年度にコミュニティセンターが設置されている。</p> <p>(医療) 平成18年4月に「保戸島診療所」が完成し、週4日間(月・火・木・金)医師の診察を受けることが可能となった。現在では、1日70人程度の方が来院し離島医療に大いに貢献している。</p> <p>(福祉) 平成9年度サービスセンター整備。内容については、利用者の配食サービスや入浴介助・健康増進のための運動等を行い、リフレッシュを図る。</p> <p>(教育文化) 文教施設については、幼稚園(1)、小学校(1)、中学校(1)がそれぞれ設置されており、平成12年度に小学校校舎の建て替えを行い教育環境の充実を図ったが、教職員住宅は老朽JRと提携して、年2回のイベント列車による観光客を受け入れており、保戸島のマグロを使った郷土料理と湾内クルージングをセットとしたツアーは好評を得ている。</p> <p>(観光) 急傾斜地に住宅が重なるように密集しているため急傾斜地崩壊対策事業が進められている。</p> <p>(国土保全)</p>				

観光案内



神武天皇が東征の折に腰掛けたといわれる岩、海難事故船の供養や航行の安全を祈願する地藏などの史跡、また、美しい自然海浜「瀨の浜(写真左)」、奇岩「高甲岩」など景勝地も見逃せません。



特産品



マグロの切り身にしょうゆ・酒・ごまのたれをかけて食べる「ひゅうが(写真)」は絶品。ヒジキめし、その他地元の魚料理なども美味です。

保戸島夏祭り



京都上賀茂神社の分霊を祀った賀茂神社の夏季大祭である保戸島夏祭り(7月)が2日間にわたって行われ、神楽、魚のつかみ取り、ゴムボートレース、花火など楽しさいっぱい。多くの島民と観光客で賑わいます。

賀茂神社
島の守護神として京都上賀茂神社から別雷神(わかいかずちのかみ)が勧請された。天文4年(1535)の創始と伝えられる。

保戸島診療所の現状と概要

設立の経緯

平成17年5月末に島内に唯一あった個人医院が閉院したため、市が公営の診療所を平成18年3月に設置（総事業費約4,700万円）、平成18年4月から社団法人津久見市医師会に業務を委託して運営している。

診療日 月・火・木・金

診療時間 午前9時～12時
午後13時～16時

休診日 水・土・日・祝日
お盆(8月14日～16日)
年末年始(12月30日～1月3日)

スタッフ 医師 1名、看護師 2名、看護助手 1名
事務員 2名、まかない 1名
【合計】7名

運営状況

平成18年4月21日の開院後、患者数は1日に70名～100名を数えており、島民にとって安心安全の要の施設として、島民の信頼を得ている。

診療所スタッフも島民が4名おり、休診日の訪問看護等、医師の指示を仰ぎながら連携して行っている。

診療所収入は、非常に安定しており、今後も医師の確保を津久見市医師会、地区と連携しながら行っていく。

平成18年度津久見市保戸島診療所特別会計決算見込み

(単位：千円)

歳入総額	81,200
歳出総額	80,773
(うち基金積立)	10,000)
歳入歳出差額	427
実質収支額	427

初年度は、薬剤購入などの初期投資が大きいため実質収支額が少ないが、翌年度以降は、実績に応じた計画的な経営により、実質収支額がさらに増える見込みである。また、平成18年度は、基金として10,000千円積み立てている。